

社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより

令和4年冬号



京都光彩の会後援会のお願い



利用者インタビュー

・なごやかサロン



2022年の目標

・グループホーム

・京都市朱雀工房（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）

・京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」

・こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」

・ワークステーション かれん工房（就労継続支援B型）

・相談支援事業所 こうさい（計画相談支援）

・西山高原工作所（就労継続支援B型）

・グループホーム賀陽、山ノ内、光（共同生活援助）

巻頭言

「歴史から学ぶ姿勢」

年明けよりコロナウイルス感染症が一気に拡がりを
見せています。報道される感染拡大の状況と比例し
て、周辺でも感染者の報告が上がってきてはその対応
に追われる日々が続いています。

そんな中、昨年に亡くなられた半藤一利氏の著書
『語り継ぐこの国のかたち』（大和書房）を読みまし
た。戦前の日本における政治の混乱や軍の暴走、そし
て無謀な戦争に突入した時代の背景や原因が分かりや
すく書かれています。この本の中で印象に残るフレー
ズがあります。「難局に対処するための処方箋はほか
のところにはなく、歴史のなかにある」。今の日本の
様に価値体系や制度原理といった基本的枠組みの安定
性が揺らいでいる、という感覚に人々が捉えられてい
る時こそ、歴史が最も信頼できる友として現れてく
る、と半藤氏は語っています。

翻って日本の障害保健福祉に目を向けると、施設内
や家庭内で見られる虐待事件や、セーフティーネット
からもこぼれ落ちる事例などが数多く見られます。一
つひとつの事例においては組織や家庭の問題点や現行
制度の課題などが指摘されますが、歴史的な視点で見
ると日本の障害保健福祉における課題は根本的な所
で解決に至っておらず、それらの事件や事例は時と場
所を変えて表出するに過ぎないという現実が見えてき
ます。

日々の現場では直面する課題に向き合っていくこと
が求められますが、今一度歴史的な観点から課題を捉
えなおす機会が必要なのでは、という思いに至りま
す。

社会福祉法人 京都光彩の会

統括施設長 中條 了

京都光彩の会後援会のお願い

『精神障がいのある人たちが、安心して、地域で暮らし、働き、社会に参加し
ていくことを支援する』ことを目的に各事業の運営や計画実施を行っていきたく
と思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。
皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進してまいり
たいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加
入も随時承っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。



京都光彩の会 利用者インタビュー

皆様に京都光彩の会のことをもっと知っていただくために、各事業所の利用者の方にインタビューを行いました。
今回インタビューを受けてくださったのは、なごやかサロン利用者さんです！



なごやかサロンの紹介



障害のある方やご家族、地域住民の方やボランティアが気軽に過ごすことができる場所が「こころのふれあい交流サロン」です。こころに病を抱える方が安心して、落ち着ける場を提供しています。京都市には13か所あり、なごやかサロンはそのうちの1か所になります。なごやかサロンは平日夕方と土日の開所が特徴です。

お一人で過ごしたい方はもちろん、メンバーが集まれば将棋、トランプ、花札などのボードゲーム、「ボドゲ」と略されることもあるそうですが、盛んにおこなわれています。「ボドゲ」大会も今後、企画されているようです。最近是将棋のボランティアの方のご協力で対局の場面も見られます。またパソコンを自由に使える環境が整っており、Web検索やYouTube配信を楽しんでいる方もおられ、一定のルールの中でそれぞれの過ごせる場所になっています。

月1回、「話し合い」では来月の予定やサロンへの要望など、集まった人で意見交換をしています。

今もなお続く感染症予防として、利用の方に検温・消毒・マスク着用のご協力を頂き、三密対策をして制限がありながらもサロンの運営を継続しています。

【開所時間】平日：16-19時、土日：9-16時 【閉所日】火曜日、第3日曜日、祝日

サロン利用の方にお話を伺いました。

❄️
Aさん

○なごやかサロンを利用したきっかけ

なごやかサロンを利用したのは2003年くらいで十九年くらいになります。当時、通院していた病院からなごやかサロンの紹介してもらいました。サロンのパンフレットが何かをもらったかは不明です。

過ごせる場所と当時は食事の提供がありました。その他、お薬や病院の情報交換ができるのではと思っていました。

○今も利用されているサロンの魅力は？

「落ち着ける場所です。」
家は家族がいて、口うるさくいろいろと言われてしまう。
サロンは曜日によって賑やかな時もあるけれど、その声はあまり気にならないし家に比べるとサロンの方がずーとい。

あとイベントに参加できると、最近ではクリスマス会があり、プレゼント交換ができた。

○サロンに来られていないときはどうされていますか？

障害者枠でパソコン入力や領収

書などの整理の仕事で週四回くらい行っている。

仕事場から家に帰る方が距離は近いけど、あまり家には帰りたくないの、なごやかサロンに寄ってから帰宅する。

なごやかサロンが休みの過ごし方は別のサロンやネットカフェで時間を過ごす。

○今後の利用の仕方

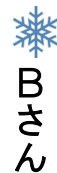
自分の体調の心配があるので、サロンで体調管理のためパソコンを使って調べることができ助かっている。

人と話をして情報を教えてもらい、時にはこころの休息の場として利用していきたい。コロナも早く落ち着いてほしいです。

❄️
スタッフからみたAさん

博識な方。わからないことがあれば教えて貰います。詳しく話してくれて、頼りになる存在です。





○なごやかサロンを利用したきっかけ

なごやかサロンのことは利用する以前から知っていた。土、日曜日が開いているのはなごやかサロンだったので、ホームページから電話番号を調べて連絡をしたのがきっかけです。まずは自分で電話をかけてから一人でサロンへきた。最初、ひとは不安だったけど、顔みしりの人もいて、少しずつ慣れてきた。今は土日になごやかサロンで過ごすことが生活リズムになっている。土日をカフェで過ごす頻度が増えると経済的負担がかさみ、なごやかサロンの利用はお財布にやさしいかなあ。

家からサロンまで距離はあるもののバスや地下鉄に乗ることはできるので交通機関をつかって通うことができる。

○サロンの過ごし方

朝からサロンへきて、お昼は近くのお弁当屋さんで買って食べる。

ぬりえや人と話すこと、でも

話をしなくても顔みしりの人がサロンにいたことが、「一人じゃない」と安心し、体調によつては静養室で横になり体を休めることもできる。誰かの気配がないと落ち着かないので静養室でもサロンで過ごしている人の声が聞こえるのは安心感につながっている。行事は一度、クリスマス会に参加したこともある。

希望を言えば本当は静養室がもう少し、環境が整っていて、第三日曜日も祝日が開所していればいいなあと思う。スタッフさんのお休みをおもうと無理言えないが…。

サロン閉所時は日中の過ごし方を考えてしまう。二月のように二回祝日があつて予定が入っていないと不安で何とか予定を作り、ない時は好きなカフェで過ごす。お気に入りのカフェの方も理解があり落ち着く場所になっている。

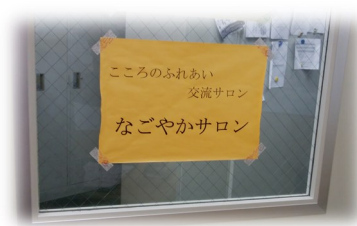
○今後について

今後は、福祉サービスA型・B型もしくは就労移行への通所も考えていて…。担当の方と相談をして進めていきたい。

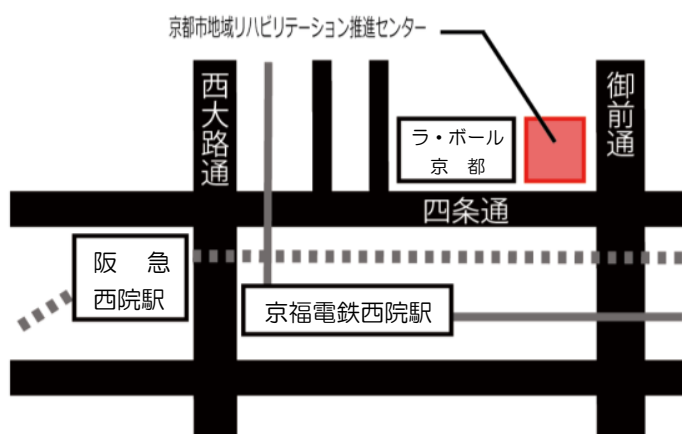


スタッフからみたBさん

本年度からのご利用です。土日に来所され、ランチの後、読書を読んでいます。「少し歩いて帰りますねー」と元気に帰られるので、こちらがパワーをもらう感じがします。



なごやかサロンへのアクセス方法



● 電車

阪急西院駅下車 四条通東に徒歩5分
京福電鉄嵐山線 西院駅下車 東に徒歩3分
JR二条駅下車 南西徒歩 16分

● 市バス

3, 8, 11, 13, 26, 27, 28, 29, 67, 69, 71, 91, 203
四条御前通下車 すぐ



2022年の目標



グループホームの入居者さんに、

2022年の目標を書いていただきました！



今年1年元気にいられるように。

病気に負けないように、

健康第一

かれん工房のメンバーさんへのインタビューは
ホームページに掲載しています。

ぜひQRコードを読み取ってご覧ください！



利用者大募集!!

就労 移行支援
就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山
高原 工作所、ワークス
テーションかれん工房で
は上記の利用者様を募集
しています。お気軽にご
相談ください。

広報委員会 委員

田中 稔一(支援センター「なごやか」)
都竹 桃子 (ワークステーション かれん工房)
高橋 恒明 (京都市朱雀工房)
中村 美恵 (支援センター「なごやか」)
松岡 芽以 (グループホーム 賀陽・山ノ内・光)



編集後記

一年を通じて、拝読していただきありがとうございます。

今年度は法人の事業所を利用されている皆さんにインタビュー形式でお届けしてきました。

今年度の試みとして、光彩だよりを手元にお届けする方法と、ホームページからアクセスして事業所NEWS!で最新の情報をお伝えして光彩だよりをアップしてみました。

最近では電子化が進んで紙媒体が少なくなっています。新聞でも漫画、雑誌もそうです。携帯があればいつでもどこでもみることが出来ます。紙をめくると画面をタッチするのでは脳の使っている部分が違つことは存じでしたか？

便利が進んでいるか？退化しているのでしょうか？

またコロナによってもたらした影響とは直接、対面できないかわりにオンラインが進歩しました。一般の

会社だけでなく、私たちの福祉職においてもそうです。会議や研修はもちろん、訪問しなくても環境さえ整えばZOOMで行うケースもあります。

舞台やライブさえも現地に行かなくてもライブ感を味わうことが出来ます。

直接会うだけがコミュニケーションでなくなる時代です。

広報でもライブ感のある情報をお届けできるように来年度に向けて準備しています。

紙媒体は残しつつもWebサイトを活用し発信していきたいと思っています。

来年度も引き続き広報委員会では内容やWebサイトを充実させていきたいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。

(中村)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai, Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所